

神々の姿や壁画の模様を題材にした皿、ブローチなど全40種類。神秘的なムードが漂うデザインで、一部は早くも売り切れるなど来館者の人気を集めている。(森田奈々子)

高梁市成羽美術館(同市成羽町下原)は、県立大(総社市窪木)デザイン学部の学生が「古代エジプト」をテーマに作ったミュージアムグッズの販売を始めた。神話に登場する

古代エジプトテーマ 皿やブローチいかが

全40種 神秘的なムード漂う

地元出身の洋画家児島 虎次郎(1881~1929年)が収集した古代エジプトの美術品を所蔵する同美術館にちなんで、4年生13人が制作したTシャツや陶器製マグネツトバッグは1週間で完

地元出身の洋画家児島 虎次郎(1881~1929年)が収集した古代エジプトの美術品を所蔵する同美術館にちなんで、4年生13人が制作したTシャツや陶器製マグネツトバッグは1週間で完

共同開発。今年は6月から準備を進め、構想からデザイン、制作まで全て学生たちが手掛けた。販売は9月17日に始まり、知恵の神・トトをあしらったトトバッグは1週間で完



「古代エジプト」をテーマにしたミュージアムグッズ。学生が手にするトートバッグは完売した

売した。

オオカミの顔をしたアヌビス神をかたどった陶器製のしよゆ差しを作った3年水川大地さん(20)は「古代エジプト文化を身近に感じてもらいたいと普段使いできる食器にした。作品はいずれも手作りです。仕上がりがもう少し違おう。お気に入り」の品を見つけてほしい」と話している。

販売に合わせ、館内では学生がモデルにした所蔵品16点も11月29日まで展示する。

問い合わせは同美術館(0866-4455)。

(C)山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。